

# 香美市文芸 風の流氷

【短歌】  
岡崎 桜雲 選

菜園の熟柿ひと木に目白来て突くひととき杖を休める  
ご機嫌に赤ちゃん言葉連打して物わたす手のやわらかきかな  
その過去は振るひ落として冬木立明日の術は明日に問はむ  
年末の心温まるプレゼント絵手紙そうて気持ほっこり  
失言を重ねる農相に尽くせりき国会に送ると亡き町長は  
やま陰に残雪ありてふきのとう土筆誰の子春はもう来ぬ  
大国のリーダーなれば共存に共栄の道歩むべきでは  
霜に耐へ風をしのぎて仏の座いのちをつなぐ花咲かせをり  
日の光明るき窓にふわふわとつかの間を舞う早春の雪  
ペランダより三宝山を望みをり左右のサクラ赤き実うかぶ  
はかどらぬ仕事に少し苛立ちて見上げれば鳥吾を見ており  
踏まれても踏まれてもなほ伸びてゆく冬野の草のたくましき見ゆ  
あれ欲しいこれ持て来いの夫を見てほほ赤ちゃんやねと言ふ孫二人  
寒々と時間を過ごせし今日の日の心寂しき夕暮れ時は  
たわわなる南天の実のまるやかに健やかなれと祈る朝なり  
新春に曾孫来たりてタツチの手充ちる力に笑みのあふるる  
振り返りまたふりかえる花達も私の方を見ているようで  
裏山をかすめて粉雪風に舞ふ今日の受験の若きら思ふ  
床の間を占むる結納朝の陽に鶴の嘴輝かに見ゆ  
成人式の自己表現のいでたちにおどろけど聴けば心根のあり  
郵便受けに水道電気の請求書たれの便りかどんぐり一つ  
散歩道角を曲がれば風強し白髪山には雪の積もれり

岡村 敏子  
中村 紫乃  
森本 幸美  
五百蔵利美  
大岸由起子  
岡本 初美  
小松 隆之  
都築 忠義  
坂上のぶ子  
盛岡 雛子  
小松 敏子  
山崎 貴子  
楮佐古きよ  
高田 清子  
公文 千恵  
谷内 務  
吉本 悦子  
武内 弘子  
古川 安子  
小松 禮子  
竹村 咲子  
大石 綏子

教え子の同窓会に招かれる若さもらいて価値ある一日  
初雪の物部の町にやってきた「ねずみ小僧の彦たん」かわゆき  
山茶花の葉にこんもりと積もる雪花のごとかり飽かず眺む  
秋冥菊の花しろく夕べ風に揺れなかに苛立つ吾かと思ふ  
掛軸の紅葉を見つつ売茶翁のことを聞きおり一服の後  
散る前のもみぢ美し佐渡送りの咎人行きし峠の道に  
それぞれの考へ違ふ夕べなり曲がりて太き胡瓜を刻む  
お絵描きの好きな五才児今何処に「先生嫁サンにもろうちやうと」云いき  
キッチン窓のひと角を照らしている朝の白し産着にも似て  
手を握り「もう良いよ」とくりかえす妻の最後の言葉となりぬ  
牧草の刈りたる後に赤トンボ我が目の追いか秋を感じる  
山田にて助けられしは雨降る日天野工業の若きお子息に  
誕生日ババおめでとくと孫の声嬉しきかぎり嫁の気配り  
売り地なる立看板を覆ふなり白き小花のどくだみ愛し  
吾座り君が立ち漕ぐふらこは風の強さに行ったり来たり  
歳月を経ても変らぬ気心の知れた友らは心の糧に  
いつの間実を結びしか千両の五粒が胸に火を点しゆく  
千年の大杉そびえ川上様人ら集いて今日秋まつり  
久し振り友人と行くシヨッピング初めての店でランチ楽しむ  
四年振り紅白リレーに選ばれて必死に走る孫よがんばれ  
捨てられる寸前小鉢に収まって今が満開可憐なピンク  
学校で平和の尊さ語る日の子等の息吹に吾も力入る  
彫りたての歌碑のわが書よ深ぶかと指もてなぞれば蘇る線  
岡崎 桜雲  
門田 明子  
林田 幸子  
公文 正子  
小松もとみ  
伊藤 清子  
佐竹 玲子  
都築 初代  
古谷 由美  
佐々木真里  
宮地 亀好  
鍵山 春子  
田村 光  
刈谷美代子  
岩井 純子  
秋 星  
野村 典子  
町 耿子  
明石 敬恵  
吉川 恵  
中村 佐代  
山崎 智子  
野島 富石  
岡崎 桜雲

## 図書館だより

### Pick Up

猫つぐらの作り方  
誠文堂新光社 編  
猫つぐらとは長野県栄村の民芸品。通気と保湿に優れ、居心地の良い猫の家を作ってみましょう。使い方や猫が喜ぶ小物、つぐらの里の魅力も紹介。

吉井勇の祖父・吉井友実  
は薩摩藩士で、坂本龍馬と親交があった人物です。勇は二人のことを『或る日の龍馬』と題して小説にしているほか、度々短歌に詠んでいます。  
【期間】3月30日(木)～9月3日(日)まで

### ◆物部分館オープン!

新しい物部分館は、明るく木の香りに包まれた居心地の良い空間です。地域の場所として、より良い図書館を目指していきたいと思えます。また、図書館にない本も、県内・県外の図書館から借りることができまので、ぜひご相談ください。

### ◆ベストリーダー(よく読まれた本)

- 一般図書
  - 1 位 人魚の眠る家 (東野圭吾)
  - 2 位 火花 (又吉直樹)
  - 3 位 つまをめとらば (青山文平)
- 児童図書
  - 1 位 台風のサバイバル (洪在徹)
  - 2 位 鳥のサバイバル (ゴムドリ)
  - 3 位 ぎえた!? かいけつゾロリ (原ゆたか)

### ◆香美市の民話紙芝居

寄贈いただいた香美市の民話紙芝居を貸し出していきます。紙芝居枠とともに、ぜひご利用ください。

### ◆第59回子どもの読書週間

図書館では、『読書がひらく香美っ子の未来』と題して、子どもの読書活動の推進を行っています。

ご家庭や地域、学校、幼稚園、保育所、図書館がひとつになって、子どもの読

天国に行きたかった ヒットマン  
ヨナス・ヨナソン 著  
ホテルマンと女牧師は神に目覚めた殺し屋を使ったビジネスを展開し、裏組織に追われる。対照的な3人の未来は…。珍しい北欧のユーモア小説。

さてさて、きょうのおはなしは……  
瀬田貞二 再話・訳  
子どもたちに多くの絵本や物語を残した瀬田貞二の復刻本。全部で28のお話は、語りの楽しさを伝える読み聞かせやストーリーテリングに最適。

猫つぐらの作り方  
誠文堂新光社 編  
猫つぐらとは長野県栄村の民芸品。通気と保湿に優れ、居心地の良い猫の家を作ってみましょう。使い方や猫が喜ぶ小物、つぐらの里の魅力も紹介。

## 吉井勇記念館だより

### 企画展 吉井勇、祖父と龍馬を詠う

吉井勇の祖父・吉井友実  
は薩摩藩士で、坂本龍馬と親交があった人物です。勇は二人のことを『或る日の龍馬』と題して小説にしているほか、度々短歌に詠んでいます。  
【期間】3月30日(木)～9月3日(日)まで

### 吉井勇作品紹介 ～祖父と龍馬を詠んだ歌～

大土佐の桂の濱の潮の音も  
龍馬思へばここに聴こゆる  
海援隊率ゐて起らしそのひとの  
膽太顔と思ふころかな  
龍馬の死聴いてとつかは馳せ付けし  
祖父の涙目に見ゆるかも

『京洛史蹟歌』より

【解説】勇の祖父・吉井友実は、西郷隆盛らと国事に奔走した維新の志士です。坂本龍馬とは、おりょうを伴って九州・霧島を旅した際に案内役を務めるなど親交が深く、龍馬が暗殺された近江屋には真つ先に駆けつけたと言われています。短歌を詠んだり南宗画を描いたり文人的な面もあり、勇は後に、自分が短歌を作るようになったのは祖父の影響だと語っています。

問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220